

令和5年度
事業計画書

特別養護老人ホーム 簸の上園

目 次

1 事業運営計画-----	P 1
2 実施施策の令和5年度行動計画-----	P 2
(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	P 2
(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上-----	P 6
(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立-----	P 10
3 目標利用率-----	P 14
4 固定資産物品購入計画-----	P 14
5 修繕計画-----	P 14
6 大規模修繕計画-----	P 14

1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員				
1	介護老人福祉施設	70名		
2	短期入所生活介護	10名		
運営方針				
1	介護老人福祉施設			
	(1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。			
	(2) 介護サービスの管理、評価を常に行い、内容の充実とサービスの質の向上に努め、安全で安心なサービスを提供する。			
	(3) 地域との連携を強化し、地域の福祉ニーズに積極的に対応するように努める。			
	(4) 法令を遵守し、積極的な情報開示と情報提供による説明責任を果たす。			
	(5) 安定した経営基盤の確立とサービスを支える人材育成に努める。			
2	短期入所生活介護			
	(1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。			
	(2) 利用者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援する。			
	(3) 利用者の家族との関係を重視し、また、担当居宅介護支援事業者等関係機関との密接な関係に努める。			
	(4) 法令を遵守し、積極的な情報開示と情報提供による説明責任を果たす。			
職種別職員配置				
1	介護老人福祉施設・短期入所生活介護			
職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1	0	0	1
事務職員	2	1	0	3
栄養士	1	1	0	2
調理員	2	1	2.8	5.8
生活相談員	2	0	0	2
介護支援専門員	1	0	0	1
介護職員	15	15	8.4	38.4
看護職員	4	0	0.5	4.5
機能訓練指導員	1	0	0	1
夜間介護員	0	0	0	0
介護助手	0	0	0	0
警備従事者	0	0	1	1
用務員	0	0	0	0
合計	29	18	12.7	59.7

縣市町村等からの受託、補助事業等	
1	要介護認定調査業務（雲南市）
2	介護予防支援業務（雲南市地域包括支援センター）
3	雲南市生活管理指導短期宿泊事業
地域における公益的な取組	
1	社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度の利用による生活困窮者の支援
2	雲南市社会福祉法人連絡会において実施される取組への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・「うんなん福祉・安全サポーター」活動 ・「くらしの安全を支える、身近でなんでも相談窓口」の設置
3	地域の高齢者の交流の場の提供を目的とした「うしおサロン」の継続実施

2 実施施策の令和5年度行動計画

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	広報活動の活性化による人材確保
取組の方向性①	夢ネットなど SNS 等を活用した新たな情報発信手段を検討し、広報活動を充実させる。また、効果的な発信方法について情報収集し、スキルを身につけることにより、ホームページ等を活性化し、施設の魅力を幅広く地域に発信する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページで職種ごとの紹介や福祉分野で働く魅力を発信し、幅広い人材の確保につなげる。
取組の方向性②	施設の紹介動画や PR 活動のためののぼり旗やポスター等の備品を作成し、就職相談会などで効果的に活用する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に作成した PR 動画を施設見学、就職相談会、ホームページなどで活用する。また、専門学校や夢ネット等で上映できる場を探り有効活用する。 ・ 地域の文化祭などでも、施設紹介作品展示と併せて上映する。
取組の方向性③	柔軟な雇用形態を検討し、子育て世代や中高年層などの潜在している人材の確保につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護業務の細分化をした上で仕分けを行い、介護労働安定センターのコンサルトを受けながら、介護助手等の柔軟な雇用形態の導入について検討する。 ・ ハローワーク等の協力も得ながら、求職者のニーズに合わせた求人内容を提案し、園単独の企業説明会の開催を検討・実施する。
取組の方向性④	各種の介護人材養成講座の実習を積極的に受け入れるとともに、就職説明会に参加し、人材確保につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護労働安定センターやグローバル等の福祉人材養成機関から定期的に受講生の動向等を情報収集し、実習の受入れについて効果的に PR する

	<p>る。また、雲南圏域に特化して研修を開催している機関へのアプローチを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉系学科のある高等学校に対し、実習受入れについて働きかける。 ・ 見学や実習の受入れに当たっては、福祉機器の体験学習などプラスアルファの企画を取入れ、魅力発信につなげる。
--	---

実 施 策	施設の魅力発信
取組の方向性①	将来の介護人材確保に向け、施設実習や職場体験等の積極的な受入れや、中・高等学校の福祉委員会等の活動の中で、福祉の魅力を知ってもらえるよう連携していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雲南市内の中学 3 年生を対象とした職業体験「夢」発見ウィークの受入れを行い、介護への関心や興味を持ってもらえる体験を実施する。 ・ 雲南市キャリア教育政策課と連携し、「夢」発見ボランティア活動の受入れを行う。
取組の方向性②	圏域の高等学校等向けに、職業紹介などの PR 活動を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域の高等学校のゲストトークに継続参加する。また、夏休みに合わせボランティア体験を開催する。
取組の方向性③	施設を身近に感じてもらうため、行事の際などには近隣圏域の学生等にボランティアを募り、関わりをもつ機会をつくる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉施設を知ってもらうため、施設行事の際には近隣の専門学校等の学生や、大東町内の小・中学生にボランティアを募り、利用者や職員と関わりを持ってもらう機会をつくる。 ・ 大東中学校の福祉委員会と連携し、季節に因んだ活動を年 2 回行う。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実 施 策	リーダーシップ力の向上
取組の方向性①	組織体制の変更に伴い、部会体制、里会のあり方を再構築する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係長・チーフ・専門職等が職階に応じた役割を遂行できるよう、会議及び委員会等を再編する。 ・ 再編した会議等の組織図に基づき、各職階の業務分担を見直す。 ・ 里会は、介護員以外の職種も参加してミニ研修会や良好な職場風土をテーマに語り合い・認め合う場とし、円滑なコミュニケーションや介護観共育につなげる。 ・ 係長級職員は、OJT やスキルアップ研修、ICT 活用による負担軽減等の取組について年間計画を立案し実践する。また、管理職及びチーフ会と連携して係長級としての役割の理解を深め、マネジメント力を養う。
取組の方向性②	各里へチーフを配置し、役割を明確化するとともに、グループリーダーによる OJT により、リーダーシップやコミュニケーション力を育てる。

行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーがチーフ会にオブザーバーとして参加して OJT を強化することで、業務改善や利用者支援の充実に向けてチーフが主体的に取り組めるようにする。 リーダーシップ、コミュニケーション、チーム力向上等に係る研修に、チーフ及び主任介護員を派遣する。
取組の方向性③	中堅職員は、専門職の役割を理解した上で、研修や実践を通して、多職種によるチームアプローチのスキルを高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 中堅職員は、専門性を高めるため、事業計画に沿った研修の講師を務めることで、自身のスキルアップとチームケアの質の向上につなげる。

実 施 施 策	職場内 OJT による人材育成と定着
取組の方向性①	職場内 OJT の導入により、互いが成長しあえる育成体制を構築する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> グループリーダーは、バイザーが面談を円滑にすすめられるように、事前に事業計画とリンクさせた方向づけや確認を行う。 里会で正規介護員の実践内容や成果を伝えることで、互いの理解を深め、モチベーションの向上やチームの成長につなげる。
取組の方向性②	グループリーダーを中心に、里での OJT 体制を整え、継続的な育成と不安なく働ける職場づくりをする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用の準職員・非常勤職員の OJT について、グループリーダーは基本的介護技術と個々の利用者への支援の両面から育成計画を立て、計画的に里全体で育成を行う。 計画的に指導担当者及び採用者との面談を行うとともに、里職員から進捗状況を聴き取り、課題を共有し育成計画の見直しをする。
取組の方向性③	非常勤、準職員は、チームの一員としての役割が発揮できるよう、年間目標を立て実践するとともに、積極的に外部研修に派遣し、スキルアップにつなげる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 準職員・非常勤職員は、業務に沿った年間目標を設定し取り組む。また、グループリーダーと年度当初、中間及び振り返りの年 3 回、5 分間ミーティング等を行い、都度、フィードバックを行う。 職場内 OJT と同様に、里会で実践内容や成果を伝え認め合う。 準職員・非常勤職員を個々のスキルや、目標に沿った外部研修へ派遣しスキルアップを図る。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 施 策	互いが高めあえる人づくり
取組の方向性①	介護分野以外にも興味のある研修・講座への積極的参加を勧め、広い視野を養い介護に反映させ、モチベーションを高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 職員の得意分野を情報収集し、利用者の趣味教室に活かす。

取組の方向性②	心的心声を語る会（意見交換の場）を開催し、互いを深く知り、認め合いや、互いの「良いところ探し」ができ、伝えあえる機会をもつ。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里会や園内研修では、グループワークなどを活用して自分の想いを表出し他者の想いを聴く「語らいの場」を設け、互いの信頼性を向上させチーム力を高める。 ・ 職員から介護川柳を募集し、自身の介護への想いや、振返りにつなげる。また、介護川柳を簸の上園便りやホームページに掲載し、介護現場の熱い想いを伝える。
実施施策	規律ある施設づくり
取組の方向性①	係長ミーティングを毎週開催し、職種・部署間の情報伝達等が、統一した事項として周知徹底できるようにする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係長会議を月1回開催し、事業計画に沿った議題を計画的に取り上げ、取組の進捗状況や課題を把握しすすめる。 ・ 各部会や部署の連絡事項を全体に周知できるよう、福祉見聞録の機能を見直し有効活用する。
取組の方向性②	職員が不適切ケアへの気づきの重要性を認識するため、セルフチェックを定期的に行い、自己覚知、互いの学びから意識を高める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切ケアに関する自己チェックを行い、部署ごとに結果を分析し、園全体で課題を共有する。 ・ グループワークを取り入れた研修を行い、互いの何気ない言動が不適切ケアの小さな芽になりかねないことを理解し、意識を高める。
取組の方向性③	人権・権利擁護に対する意識啓発を行い、互いに気づき、伝え合える関係を作る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位者は積極的にコミュニケーションの機会を持ち、声がかけやすい雰囲気や互いに「指摘し合える関係」をつくり、サービスの質向上につなげる。 ・ 権利擁護推進員養成研修、人権・権利擁護に係る研修へ職員を派遣し、研修に参加した職員を中心に取組を行う。
取組の方向性④	顧客志向の啓発のためのビジネスマナーなどの研修を開催し、職員がそれぞれ具体的な目標を掲げ実践する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇目標は前年度の「あいさつに、続くひとこと思いやり」を継続し、あいさつに一言添えた意識的な声のかけ合いを実践する。 ・ 年2回接遇チェックを行い、あいさつ、身だしなみ、ルールの厳守といった当り前のことに徹底して取り組む。また、取組結果に対し、接遇マイスターを選び表彰し、手本とする。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	多様な働き方の検討と導入
取組の方向性①	勤務時間に条件のある求職者が働きやすいような柔軟な雇用形態や職員個々の生活スタイルに合わせた勤務形態の検討・試行を行う。
行動計画	・ 幅広い時間帯での求人を検討し、求職者のニーズとマッチングさせる。
取組の方向性②	外部委託している清掃業務について、働き方の選択肢を増やす観点から、委託の必要性や業務の見直しを検討する。
行動計画	・ 清掃業務については労務管理も含め業者委託を継続しているが、委託料の高騰もあるため、委託の是非について引き続き精査する。

実施施策	職員の心身の健康管理
取組の方向性①	心身の健康を保てるようメンタルヘルス、ハラスメントに関する研修を開催し、ストレスコーピングを身につけ、セルフケアに生かす。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ セルフケアの重要性を理解し、解消方法や自分との向き合い方を身に付けることができるよう外部講師による実践的研修を開催する。 ・ 対話力や聴く力を高める研修に係長級職員を派遣する。 ・ 職場環境をより良くするため、ハラスメント防止研修へ職員を派遣し、ハラスメントに対する意識を高める。
取組の方向性②	多目的休暇以外のアニバーサリー休暇の導入や、年休を活用した連続休暇を取得できるようにする。また、運動・造形・集いの場など、職員がリフレッシュできる企画を実施する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ リフレッシュの機会が持てるよう勤務を調整し、連続休暇を取得する。 ・ 地域の店舗や企業を活用した木工細工やハーバリウム作りなどのリフレッシュ企画を募り、実施する。 ・ 各部署で毎月1週間のNO残業ウィークを設定し、具体的な対策を掲げ時間外縮減に取り組むとともに、定期的に分析する。
取組の方向性③	5S活動を推進し、働きやすい職場環境を整える。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境係を中心に、定期的に部署内の物品・備品の整理や清掃を行い、安全で清潔な生活環境を整えるとともに、作業環境の効率化を図る。 ・ 衛生管理者の巡視に加え、年3回園内の安全点検ラウンドを行い、必要な箇所を改善し、安全な作業環境を整える。 ・ 労働災害に係るヒヤリハットを集積及び分析し労働災害の防止につなげる。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	個別ケアの充実
取組の方向性①	専門研修や先進施設へ職員を派遣し、個別ケアの理解を深める。
行動計画	・ リニューアルされた県内の従来型特養施設を視察し、従来型特養での

	<p>個別ケアの在り方や将来の方向性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の場での健康管理の考え方、多職種との連携の重要性について理解が深まるよう、専門職を他施設視察や交流体験研修に派遣する。
取組の方向性②	24H シートの理解を深め、職員間で共通認識を持つことにより、「意向・好み」「出来ること」を充実させる。また、個別ケアに反映させるためのケア体制を構築する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 従来型特養での個別ケアを進める上で、24H シートの活用の有効性について、人材育成室と連携し再検討する。 「意向・好み」「出来ること」や支援の統一については、最適なツールを人材育成室と検証し、支援に反映させる。 利用者の暮らしぶりを共有できるよう、「ケアに関わった職員が記録をする」を基本として記録を充実させる。職員の個々の能力に配慮しながら進める。 食に関して、メニューだけでなく、器の選択など提供方法やイベント感の演出等により、楽しみにつながる工夫をする。 利用者の反応や、食の大切さを再認識できるよう、季節や食歴、好みを反映させた里調理を栄養管理スタッフとともに計画的に行う。
取組の方向性③	眠り SCAN の機能を再度学習し、有効な活用方法について具体化し、運用方法を整理し実践する。また、本部と連携しながらマッスルスーツ等の新たな介護機器の検討と導入に向けた試行を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の眠り SCAN 試行結果に基づき、ケアの充実と職員の負担軽減に向けた検討を行い、導入計画を立てる。 ICT の活用については、多角的視点から排尿センサーなど様々な機器の情報収集を積極的に行い、試行する。
取組の方向性④	口腔衛生・嚥下機能に関する取組、スキンケアなど専門職による実践をする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 協力病院の歯科医師及び歯科衛生士から指導・助言を受け、口腔ケアに関する知識・技術の向上を図る。また、外部講師による摂食・嚥下に関する勉強会を開催し、効果的な口腔ケアの定着を図る。 スキンケアだけでなく、日常生活全般から褥瘡予防の視点が深められるよう、専門職と協働しケアスキルを向上させる。

実 施 施 策	専門性を備えたサービスの提供と介護観共有
取組の方向性①	認知症に関する研修に経験年数の浅い職員を派遣し、専門性を高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践者研修及び実践リーダー研修に職員を派遣し、認知症への理解を深めるとともに、認知症ケアの質の向上や加算の算定につなげる。
取組の方向性②	認知症や看取り介護の実践に基づく園内研修を計画的に実施し、多職種で

	のチームアプローチの強化と職種間連携の向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践リーダー研修及び実践者研修を修了した職員を中心に認知症ケアチームを編成し、研修の開催や事例に基づいた認知症ケアを充実させる。 看取り介護チームを中心に、事例を通して生活歴やエンディングノートをひもとき、多職種協働による看取り介護を充実させる。 看取り介護や意思決定支援に関する研修に職員を派遣する。
取組の方向性③	OJT や語り継ぎによる共有やアドバンスケアプランニングの継続、偲びのカンファレンスの充実により、職員の介護観を育てる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者に加え、各里 5 名ずつの利用者についてエンディングノートを作成し、実現可能なことを具体化し実践する。 偲びのカンファレンスは、退所後 10 日以内に「出来たこと」「良かったこと」を中心に伝え合うミニカンファレンスとして開催する。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	リスク管理体制の充実
取組の方向性①	シエル分析の理解を深め、洞察力・予知力を高めるとともに、多角的分析力を養う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生時には速やかに共有し、多職種による事故検証と分析を行う。 園内研修では具体的な事例をあげて、「防げる事故」「防げない事故」の仕分けについて理解し、多角的な分析や洞察力を高める。 防げる事故件数については、前年度より減らす。 リスクの高い事故や繰り返す事故については、各部署で 3 か月を目途に対応策が適切であったか検証を行い、事故対策部会で評価する。
取組の方向性②	ヒヤリハットの集積により重大事故を防ぎ、気づきの大切さを理解する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット強化月間を年 2 回実施し、上位にあがったヒヤリハット区分については、事故につながらないように周知し意識付けをする。
取組の方向性③	安全点検ラウンドの定着により、里間のチェック体制や自己点検の意識啓発をし、リスクを回避する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 会議、委員会等の再編に伴い、安全点検ラウンドは安全衛生委員会が、危険個所のチェックや福祉用具の点検については各里が、それぞれ計画的に実施し、リスク管理に努める。

実 施 策	我が家と思える居場所づくり
取組の方向性①	各里のケア体制に合わせた食堂やパブリックスペースの設えを検討し、改善を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 短期入所の設えについてはケア体制に照らし合わせて検討を行い、食堂やパブリックスペースを有効活用できるよう環境を整える。

取組の方向性②	馴染みの家具などの持ち込みなどにより、在宅での生活スタイルに近い環境に設え、我が家と思える居場所を整える。
行動計画	・ 新規利用者については、前年度作成したモデルルーム写真を活用し、家族と一緒に生活歴や好みに沿った、安心できる居室を設える。
取組の方向性③	自動水栓などの感染症対策や床材の変更など安全面を考慮した居住環境の整備を行う。
行動計画	・ 居住環境の整備について、令和4年度に将来的な構想も含め本部と協議を行ったが、今後も園内で設備、居住環境等について意見交換を実施し、優先順位を決め提案し本部と協議する。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域における公益的な取組の強化
取組の方向性①	うしおサロンの現状と課題については、うしおサロン運営委員会で精査し、今後のあり方について検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 「うしおサロン」の利用者、運営委員及びボランティアへ定期的に会報等を配布し、つながりを継続する。 うしおサロンについては存続も含め、再開時期や内容について具体的に検討する。
取組の方向性②	雲南市社会福祉法人連絡会における活動を継続するとともに、「くらしの安全を支える身近でなんでも相談窓口」については、情報発信を工夫し、相談利用を増やしていく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口について、定期的に簸の上園便りやホームページで発信するとともに、相談例なども掲載したわかりやすい地域向けの情報通信を発行する。 雲南市社会福祉法人連絡会や研修会に出席し、圏域の現状について情報交換をする。

実施施策	地域の福祉ニーズへの対応
取組の方向性①	地域の福祉ニーズを調査し施設の役割を見出すとともに、地域に向けた情報発信方法を検討し実施する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の生活相談員連絡会、雲南市社会福祉法人連絡会などに積極的に参加し、地域における福祉ニーズを把握する。 地域向け情報通信の発行など、地域住民が福祉へ関心を持ち、要望を発信してもらえるよう働きかけを行う。
取組の方向性②	地域交流スペースを気軽に使え、施設を身近に感じてもらえる方法を検討し地域へ開放する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 地域へ開放し活用してもらえるよう、つながりのある団体に働きかけるとともに、地域への情報発信を行う。また、活用に向けたルール作

	りを行う。
--	-------

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	利用率の維持向上
取組の方向性①	入所待機者の状況を定期的に精査し、速やかに入所に繋げる体制を維持する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 入所申込者の動向を定期的に確認するとともに、事前調査を計画的に行い、入所候補者を男性2名、女性5名及び医療行為2名を常時確保しておく。 相談・専門室内で入所に係る業務を整理し、業務分担することで入所業務の効率化を図る。 短期入所については予約時の利用率100%を目指し、平時から圏域や隣接市の居宅介護支援事業所と情報交換を行い、速やかに利用調整を行う。
取組の方向性②	退所から入所及び入院による空床期間を短縮させる。また、短期入所での空床利用を活用し利用率を維持する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 退所の見通しがある場合は上位待機者に入所の目安を伝えるとともに、連絡を密にし、退所後7日以内の入所につなげる。 圏域、隣接市の居宅介護支援事業所との情報交換を密にし、退所や入院による空床の短期入所利用をスムーズに行う。 多職種連携による健康管理の継続と、嘱託医と連携した適切かつ速やかな施設での治療を行い、入院件数を抑える。 体調不良者の施設内療養に際しては、看護師から病態や予測される症状、エビデンスに基づく対応について、ミーティングや記録を活用し周知する。
取組の方向性③	医療的ケアの必要な方の入所や短期利用が柔軟に受け入れられるよう検討し改善する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引等研修に職員を派遣するとともに、有資格者については手技確認を行い、適切な医療的ケアを実施する。 現在の受入ガイドラインに沿って柔軟に受入れを行い、利用率の維持・向上につなげる。また、安全な受入れができるよう、観察項目や対応について看護師による指導・研修を行う。

実 施 策	コスト意識の啓発と実践
取組の方向性①	定期的な巡回や点検、計画的な空調使用のルール化や、光熱、水道費などの経費を数値化し、定期的に提示しコスト意識高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> チーフ会等で収支状況について話し合う機会をもち、現場目線での節

	約のためのルール化や経費削減に取り組む。 ・ 施設で提供する物品と、利用者が個人購入する物品について整理する。
取組の方向性②	定期的に設備の点検管理を行い、適切な使用について啓発を行い実践する。
行動計画	・ 不具合を早期発見・対応できるよう、定期的な設備点検を行う。 ・ 経費についてわかり易く数値化したものを職員に提示し、園全体のコスト意識を高める。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	施設の維持管理
取組の方向性①	大規模修繕計画については、本部と連携をとりながら進めていく。
行動計画	・ 今後の箴の上園の方向性と大規模修繕計画が一致するよう、計画内容を見直し、本部に提案する。
取組の方向性②	施設内外の自主点検を定期的に行い、劣化不備のある箇所については、計画的に修繕が出来るよう、年度の事業計画、予算措置を講じていく。
行動計画	・ 設備や備品の不具合を早期発見するため、年3回巡回点検をする。 ・ 定期的に環境整備の日を設け、園外周、中庭等の整備を行う。また、引き続きボランティア等へ協力を依頼する。
取組の方向性③	現在の仕様では不十分な設備やプライバシーに配慮した居室や快適に過ごせる食堂の整備について、本部と協議していく。
行動計画	・ 居住環境の整備について、令和4年度に将来的な構想も含め本部と協議を行ったが、今後も園内で設備、居住環境等について意見交換を実施し、優先順位を決め提案し本部と協議する。(再掲) ・ ベッドの更新計画の見直しを行う。

実施施策	BCP（業務継続計画）BCM（業務継続マネジメント）の構築と周知
取組の方向性①	感染対策に関するマニュアル等の見直しを行い、感染予防策を再構築するとともに、衛生教育を継続する。
行動計画	・ 令和4年度に修正した新型コロナウイルス発症時対応マニュアルに沿って、指揮命令系統及び利用者支援のシミュレーション訓練を実施する。 ・ 前年度の新型コロナウイルス感染症の園内発生時の事例をもとに、職員の衛生教育を実施するとともに、時期に応じた予防啓発リーフレットを作成し配布する。
取組の方向性②	BCP 計画の周知と、PDCA サイクルによる見直しを行いより実効性の高い計画にする。
行動計画	・ 想定される災害ごとの備品・備蓄品の適正量の見直しや保管場所の整備を行い、職員に周知する。 ・ BCPに基づく研修・訓練を行い、訓練を通して生じた課題に対して BCP

	の見直しを行う。
取組の方向性③	非常食の提供、断水時、停電時など、職員が共通理解のもと行動できるよう、テーマ別に防災訓練を実施するとともに、指揮系統の確認をする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災マニュアルの見直しを行うとともに、特に断水・停電時の対応について整理し職員への周知を行う。 ・ 定期の防災訓練に併せ、有事の際に適切な判断ができるよう、防災設備、避難誘導経路等について机上訓練を行う。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	外部評価の受審等による信頼性の向上
取組の方向性①	第三者評価の受審に向けた準備とその評価結果に基づき課題を明らかにした上で、具体的な方策を検討し改善に向けて取り組む。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業団の施設間評価の方向性を勘案し、雲南地域特別養護老人ホームサービス自己評価を使用して施設の課題を整理するとともに、令和6年度の第三者評価受審を目途に準備する。
取組の方向性②	第三者委員会のあり方を見直し、より多くの意見をもらい改善につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防に留意しながら、利用者の生の声を聴きとってもらえる機会をつくる。 ・ グループリーダーも第三者委員会に出席し、意見交換の場を設ける。 ・ 第三者委員から聴取した意見については、福祉見聞録掲示板を活用し、委員会後速やかに職員に周知し各部署での改善を促す。
取組の方向性③	利用者・家族・ボランティアアンケートを継続実施し、得られた結果の分析により、抽出した課題を改善する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者アンケートは、より本音が聴き取れるよう、事前に聴き方や場面設定を統一した上で実施する。 ・ 家族の率直な意見が集約できるよう、令和4年度の課題や取組を反映させた設問に見直した上で、家族アンケートを実施する。

実施施策	施設内連携強化
取組の方向性①	内部チェック体制のルール化と文書化をする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務表作成の基本ルールが見える化し、里間の勤務体制の隔たりを最小限にする。
取組の方向性②	各部署での個人情報の取扱いを徹底する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要事項説明書をもとに、個人情報の取扱いや、介護保険に関する勉強会を開催し理解を深める。
取組の方向性③	経営企画会議等の決定事項について、スムーズな情報伝達や指示系統を再構築し、全職員の情報共有を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が情報をタイムリーに確認できるよう、各会議の議事録は全て

	<p>福祉見聞録で作成する。</p> <ul style="list-style-type: none">再編成した組織図をもとに、各会議や部署、専門ケアチームが連携するとともに、係長級職員やチーフが主体的に取り組むことで、組織が円滑に機能する仕組を構築する。
--	--

3 目標利用率

事業名	令和3年度実績	令和4年度見込	令和5年度目標
介護老人福祉施設	98.6%	98.1%	98.0%
短期入所生活介護	94.1%	86.1%	96.0%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

項目	数量	執行見込額（税込）
電動ベッド	6	
フルリクライニング車椅子	1	
チルトリクライニング車椅子	1	
モノクロレーザープリンター	1	
デスクトップパソコン	7	

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
壁クロス補修工事	
浴室壁タイル張替	

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
PAS（区分開閉器）更新工事	
自動火災報知設備受信機更新工事	